

富士山初登頂（2008.06.14）

L 灰谷、山田、稲葉、土田、金子、吉住（記）

天気の良い日は会社の窓から朝一番に富士山の秀麗な姿が飛び込んでくる。その姿を見ていつか必ず登ろうと思いつつも、機会がなくて挑戦できないでいたが、灰谷さんに誘っていただき、ついに富士山に登頂する時がやってきた。

6月13日（金）夜8時、灰谷車に山田さん、金子さん、吉住が乗り込み鶴見を出発した。途中東名高速伊勢原バス停で稲葉さんが合流し御殿場に向かう。

スカイラインに入る前にコンビニでビールを仕入れ新五合目駐車場を目指す。しかし登っていくと新五合目は風が強そうなので、少し引き返してトイレがある広い休憩所でテントを張ることにした。入山祝いは「軽めに！」のかけ声にもかかわらず、誰も「軽め」を守る意志がない。稲葉さんのおいしい泡盛が登場すると「12時までに就寝」という事前打ち合わせも忘れ、登山前夜と思われない酒宴の場に・・・。

翌朝は天気恵まれ、新五合目をAM5時に出発。6合目を過ぎて土田さんが我々に追いつき合流、6人で頂上を目指す。富士山の頂上付近は登山口からずっと見えているが、なかなか近づいてこない。富士山の雄大さを改めて感じる。雪は少なく、9合目付近でやっとアイゼンを付ける。最後の直登に入ると高度のせいなのかアルコールのせいなのか、心臓の鼓動も激しくかなりしんどくなるが、何とか頂上にたどり着いた。頂上は元測候所の建物があり今ひとつだが、「日本最高峰富士山剣ヶ峰」の標柱に感激。改めて日本の山頂に立っていることの喜びをかみ締める。しばらく頂上にいたが展望はあまり無く、ガスも出てきたのでお鉢巡りは中止して下山することになった。雪渓を歩いていた時はよかったが、登山道に戻ると土ホコリが立ち、とにかく歩きづらい。3時間ほど歩きやっと駐車場にもどる。最後はふらふらだったがついに念願の富士山登頂を果たせた。灰谷さんをはじめとしてご一緒して下さった皆さん、ありがとうございました。

駐車場からは更に灰谷さんが準備した楽しみが待っていた。マウンテンバイクでスカイラインを駆け下るのだ。40km/h以上のスピードが出るので最初は恐る恐るであったが慣れてくると実に爽快だ。二台のバイクをみんなで交代しながら乗り継ぎ、あっという間に富士山を駆け下りた。

鶴見に戻ったあと、しっかりと反省会も行った。ただ、当日日焼け止めを塗り忘れていたので、翌日は日焼けで顔が腫れ上がってしまい、悲惨な姿になってしまった。今回の山行は私にとって忘れられない思い出になった。